

B型肝炎ワクチン定期接種化の意味

特定医療法人とこはる 東栄病院 小児科 菊田英明

B型肝炎ワクチンが、2016年4月以降に生まれた0歳児に対して2016年10月から定期接種化(無料)となります。B型肝炎ワクチンは、1992年WHOが世界中のすべての子どもたちに定期接種として接種するよう強く推奨したワクチンで、現在までに世界の90%以上の国で定期接種化されております。やっと日本で定期接種が開始されることになりました。

B型肝炎ウイルスに感染し、キャリア(=ウイルスを体内に保有し続ける人)になると、慢性肝炎、最悪の場合は肝硬変や肝臓がんなどの命にかかわる病気を引き起こします。そのため、B型肝炎ワクチンは「肝臓がん予防ワクチン」といえます。3歳までにB型肝炎ウイルスに感染するとキャリアになりやすいため、お母さんがB型肝炎ウイルスのキャリアである子どもに対して、1986年から公費によるB型肝炎ウイルス母子感染予防措置(B型肝炎に対する抗体とB型肝炎ワクチンの接種)が行われ、母親から子どもへの感染(垂直感染)は顕著に減少してきました。しかし、残念ながら予防措置は完全ではなく、数%の子どもはキャリアとなってしまいます。

B型肝炎の感染経路としては、垂直感染だけでなく、父親、同居している祖父母や集団生活の場での水平感染があります。今回のB型肝炎ワクチンの定期接種化はこれらの水平感染を防ぐためのものです。B型肝炎ウイルスは血液、傷口からの浸出液や精液、膣分泌液で感染すると考えられてきましたが、唾液、汗、涙、尿にも少量のウイルスが存在することが分かってきました。しかし、外傷を手当てする場合に血液に直接触れないようにする、食べ物の口移しをしない、園児の間で体液や血液が付着する可能性のあるもの(例えば歯ブラシやタオルなど)の共有を避けるなど常識的な日常生活を心がけていれば、感染することは極めて稀と考えられます。そのため、保育園での日常生活に過剰に神経質になる必要はありません。むしろ、キャリアの子どもが差別されないようにする注意を払う必要があります。

近年、性行為に伴ってジェノタイプAというキャリアしやすい遺伝子型のB型肝炎ウイルスが、若令層を中心に拡大してきております。しかし、性行為に伴っておこる水平感染の予防に関しては手付かずの状態です。この若年層のキャリアが増加することは、キャリアのお母さんから生まれてくる子どもが増加することを意味します。今回の対象者にならなかった子供さんは、中学校までにB型肝炎ワクチンの接種をお勧めします。また、保育士さんのB型肝炎ワクチンの接種は自分を感染から防ぐだけでなく、子どもたちへの感染源にならないためにも有料ではありますが、これを機会に是非、接種を行うことをお勧めします。

医学豆知識に戻る

<http://www.touei.or.jp/medknowledge.htm>